

Europe Indicators

発表日: 2021年5月6日(木)

欧州経済指標コメント: 1-3 月期ユーロ圏GDP

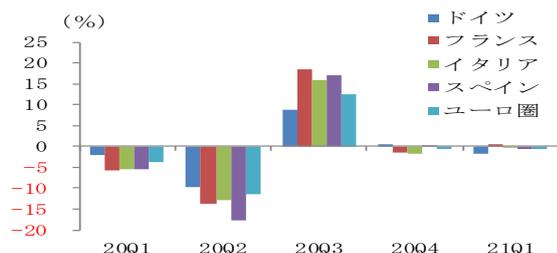
～第一波と比べて極めて浅い二番底～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

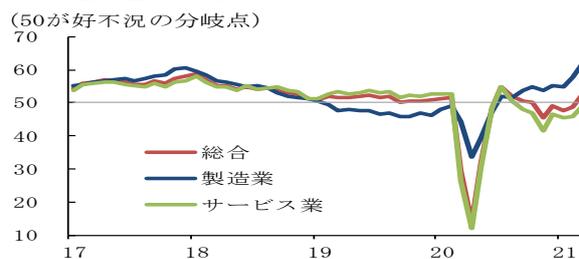
- 連休前の4月30日に発表された1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は、前期比▲0.6%、同年率▲2.5%と2四半期連続のマイナス成長。但し、昨年1-3月期と4-6月期が通算で▲14.9%落ち込んだのに対し、今回は▲1.3%の落ち込みにとどまる。行動制限の対象や地域が限定、在宅環境の整備、製造業活動の回復などから、感染第二波・第三波では感染予防と経済活動の両立がある程度可能に。一部の国が段階的な行動制限の解除を開始し、英米に比べて遅れていたワクチン接種もここに来て拡大しており、4-6月期以降はプラス成長へ復帰する可能性が高い。
- 既報の国別計数は、ドイツ（前期：同+0.5%→今期：同▲1.7%）、イタリア（同▲1.8%→同▲0.4%）、スペイン（同横這い→同▲0.5%）、ポルトガル（同+0.2%→同▲3.3%）、ラトビア（同+1.1%→同▲2.6%）がマイナス成長となった一方、フランス（同▲1.8%→同+0.4%）、ベルギー（同▲0.1%→同+0.6%）、オーストリア（同▲2.7%→同+0.2%）、フィンランド（同+0.4%→同+0.3%）がプラス成長。危機以前と比べたGDPの水準は、ユーロ圏が▲5.5%、ドイツが▲4.9%、フランスが▲4.4%、イタリアが▲6.9%、スペインが▲9.4%。
- 需要項目別の内訳は各国で区々。プレスリリースによれば、ドイツで輸出が増加した一方、個人消費が下押し（25日に詳報が発表予定）。イタリアは内需がプラス寄与の一方、外需が下押し。スペインは個人消費や設備投資など内需が下押し。内訳が公表済みのフランスは、輸出（同▲1.5%）が下押しした一方、個人消費（同+0.3%）、政府消費（同+0.5%）、設備投資（同+2.2%）、在庫投資（同+0.2%ポイント）が成長を押し上げた。

■ユーロ圏主要国の実質GDP成長率（前期比）



出所: Eurostat

■ユーロ圏の企業景況感（PMI）の推移



出所: IHS Markit

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
19/4-6月期	2.6	0.8	(6.4)	0.7	1.5	30.0	(0.2)	▲5.7	0.6	14.2
19/7-9月期	2.6	0.9	(▲4.8)	1.4	2.8	▲20.2	(▲1.0)	5.6	2.9	▲8.6
19/10-12月期	2.1	0.4	(4.7)	0.4	1.4	27.1	(▲0.9)	▲4.4	▲0.8	9.3
20/1-3月期	▲12.7	▲14.2	(▲12.1)	▲16.6	▲0.7	▲21.5	(2.0)	▲2.1	▲14.3	▲11.1
20/4-6月期	▲36.6	▲38.8	(▲35.6)	▲41.6	▲8.4	▲50.5	(▲0.1)	▲3.2	▲56.4	▲55.0
20/7-9月期	61.0	60.3	(49.9)	70.3	19.9	67.7	(▲5.7)	10.4	85.5	56.3
20/10-12月期	▲2.3	▲2.7	(▲2.5)	▲12.5	1.2	7.9	(2.7)	▲0.2	16.8	19.1
21/1-3月期	-	▲2.5	-	-	-	-	-	-	-	-

出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

